

語に着目して作品を具体的に想像できる児童の育成

—登場人物の行動と生活経験を結び付けるウェビングを通して—

特別研修員 国語 奈良 裕美 (小学校教諭)

動作化する

「ちいちゃんの
頑張りたい気持ち
が分かってきたぞ」

共有する

「頑張るときにも
踏みしめるのか」

気持ちを思い出す

「どんな気持ち
だったかな」

経験と結び付ける

「あのとき
踏みしめて
立ち上がったな」

語に着目する

「立ち上がる」
だけでもいいのに
「ふみしめて」
が付いているな」

手立て2

経験の共有や動作化を行い、
語の意味を具体的に考えさせる

- ・児童の経験を取り上げる ・実際に動作化させる
- ・児童の動作化を取り上げ、
見ている児童にその動作について考えさせる

手立て1

登場人物の心情を考える際に、
行動や情景描写に焦点を当て、
生活経験と結び付け、気持ちを想起させる

「ふみしめて立ち上がる」についてのウェビング

「深くうなずく」についてのウェビング

「ひとりぼっち」についてのウェビング

「ちいちゃんの気持ちに
寄り添って読めた」



「ウェビングを使って
何度も学習してきたら、
どの語に着目して
読めばいいか
分かってきたぞ」

ウェ
ビ
ン
グ

場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう
「ちいちゃんのかげおくり」(3年・光村図書)

児童の実態

「文章はなんとなく読めるけど、
具体的に想像できない語があるな」

教師の願い

叙述と自分の経験と結び付けて
作品を読めるようになってほしい

県の動向

必要感のある言語活動
何を学んだかの再確認

成果○と課題●

- 繰り返し出てくる語や、登場人物の動作が具体的に書かれている語について考えることが、登場人物の心情を理解する手掛かりになるということに気付かせることができた。
- 登場人物の言動と児童自身の生活経験を結び付けて考えさせたことによって、登場人物の心情を具体的に想起させることができた。
- ウェビングにおいて、児童にとって意味の捉えが曖昧だったり、普段の生活の中で使う機会が少なかったりする語などを選定した場合、思考が広がらないことがあった。経験の共有や動作化以外にも、同意語を紹介したり、その語を使う他の場面を紹介したりなど、他の手立ても必要であった。